

6 3 6 1 - 9 5 1
平成 2 1 年 2 月 2 5 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 0 年度病害虫発生予察注意報第 5 号について
平成 2 0 年度病害虫発生予察注意報第 5 号を発表したので送付します。

平成 2 0 年度病害虫発生予察注意報第 5 号

平成 2 1 年 2 月 2 5 日
宮 崎 県

病害虫名 カンザワハダニ

作物名 茶

1 発生地域 県下全域

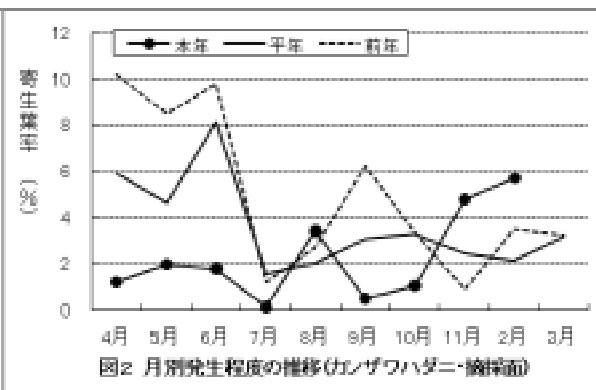
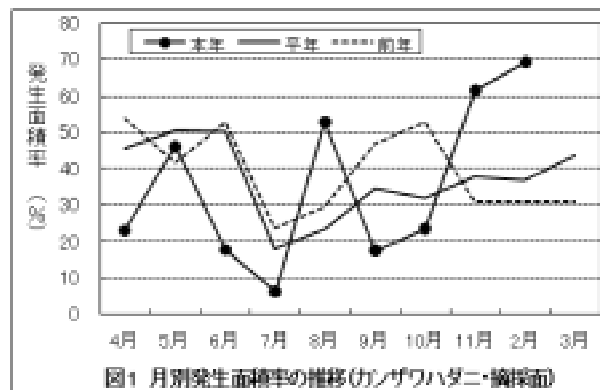
2 発生時期 -

3 発生量 多

4 注意報の根拠

- 1) 2 月中旬の茶樹摘採面調査における発生面積率は 6 9 . 2 % (平年値 3 6 . 8 %) 及び、寄生葉率は 5 . 7 % (平年値 2 . 1 %) で過去 1 0 年間で最も多い (図 1 ~ 2) 。
また、茶樹裾部調査における発生面積率は 9 2 . 3 % (平年値 5 4 . 7 %) 及び寄生葉率は 2 2 . 0 % (平年値 6 . 2 %) であり過去 1 0 年間で最も多い (図 3 ~ 4) 。

- 2) 気温の上昇にともない、今後も発生量が増加すると予想される。



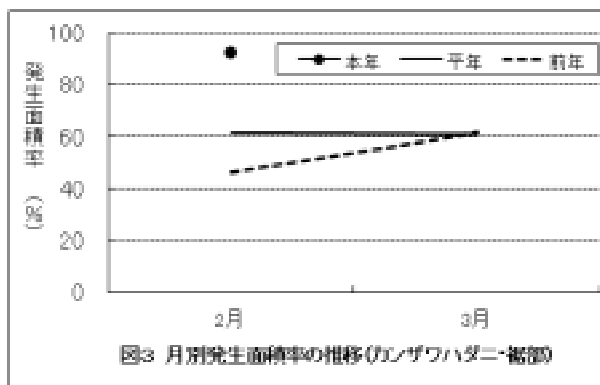


図3 月別発生面積率の推移(カンザワハダニ・茶園)

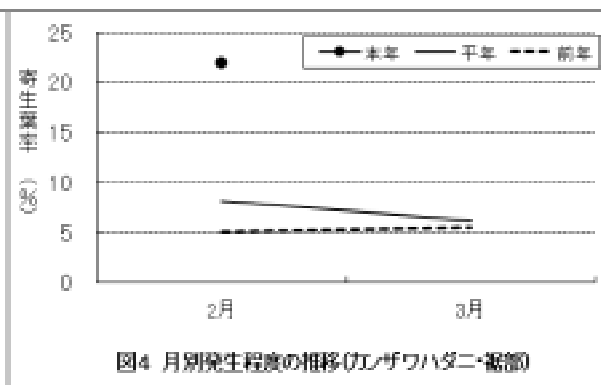


図4 月別発生程度の推移(カンザワハダニ・茶園)

5 防除上の注意

1) 防除の適期は、産卵開始期(3月上旬)であり、この時期の防除が十分でないと多発生することが多いので3月上旬の防除を徹底する。

なお、気温が高いので、沿海地域では、産卵、幼虫ともみられ、ステージが早くなっているため、状況に応じて早めの防除を実施する。

また、一番茶萌芽後に密度が高い場合には、使用時期に注意し摘採前日数の短いダニ剤を選択して防除する。

2) 一番茶前の防除が不十分な茶園では、刈番茶終了後に防除を行う。天敵の働きが活発になる時期であるので、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

3) 農薬散布時には、周辺作物や茶園への飛散(ドリフト)防止を図るとともに、摘採前の周辺茶園の芽の状態に注意して防除する。

4) 本虫は、葉裏のややくぼんだ部分に好んで生息するため、株の内部や裾の葉裏まで薬剤が十分かかるように、適正な散布量で丁寧に散布する。

5) 抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

6) その他詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場(生物環境部、茶業支場)、支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)等関係機関に照会すること。

また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》
病虫害防除・肥料検査センター 生頼
TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499
ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>
E-mail byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp